

⑦3 相馬市新庁舎建設事業

受賞機関 福島県 相馬市

キーワード 機能性の工夫、周辺環境との調和、木材活用

全建賞審査委員会の評価ポイント

震災の影響もあり耐震安全性に問題があった旧庁舎と、仮設庁舎であった分庁舎を、再整備した事業。

利用しやすい動線計画・平面計画、フレキシブルな無柱空間、避難スペースの確保、自然エネルギーの有効利用などとともに、城下町の周辺環境との調和、議場へは旧庁舎と同じ木材の活用などに取り組んでおり、歴史を継承するとともに、行政の中枢の拠点として長く使われることをよく考慮した庁舎となっている点が評価された。

1. はじめに

本事業は、震災の影響もあり、耐震安全性に問題を抱える旧庁舎と仮設庁舎にて運用していた分庁舎の再整備事業である。新庁舎は、市民に親しまれ、使いやすく、そして歴史と文化にあふれた相馬を象徴する庁舎を基本理念として建設した。

2. 事業の概要

○規模構造：鉄骨造 地上4階建 基礎免震構造

○延床面積：9,534.17㎡

新庁舎の建設にあたっては、市民と協議を行い、「市民が集う、相馬の歴史風土と調和した新庁舎」とのコンセプトのもと、外観を城下町の歴史に合致した和風デザインにするとともに、次なる災害に備えるための免震構造を導入、さらに1階のホールスペースは、市民が気軽に集い、相馬市民としての思いを深めることができる場所となるよう計画した。



西側外観とお堀

3. 事業の成果

周辺環境と調和する良好な景観形成として、新庁舎の外観は、建物を低層に抑えて、切妻の瓦屋根、深い軒、下見板張りの壁面で構成とすることで、城下町の風情や周辺公共施設との景観形成に配慮した風格を醸し出すデザインとし、相馬の歴史と文化を未来へ繋ぐことを目指した。

市民サービスの向上を図るための安全安心な庁舎として、動線計画や平面計画をシンプルな構成とし、誰もがわかりやすく利用しやすい計画とし、各階の執務室は、将来の組織改革による間仕切り壁やレイアウトの変更にもフレキシブルに対応できる使い勝手のよいオープンな無柱空間とした。さらに、市民や職員のコミュニケーションが図れる交流空間としてホールスペースを充実させた。また、市の防災拠点として基礎免震構造とすることで、市民の安全安心を確保する庁舎とした。

地球環境時代にふさわしい施設整備としては、太陽光発電パネルの設置や十分な自然採光や自然通風が可能なサッシとすることで自然エネルギーの有効的な利用を図り、深い軒による日射抑制をしているほか、エコ建材として、外壁や軒天、内装仕上げ材への木材活用を行った。



旧市庁舎の議場と同じサペリ材を用いた議場

4. おわりに

相馬市の行政の中枢として位置づけられるこの新庁舎がまちづくりの拠点として、末永く市民の方々に愛される市庁舎であることを願っている。

賛助会員 (株)小野中村、戸田建設(株)